

需要から選好を逆算する手法について

細矢 祐誉

概要

本稿で我々は、推定が困難であるとされる効用関数を、推定がより容易であろう需要関数、政策関数、生産関数等から逆算するための手法について考える。最初に考えるのは Ramsey-Cass-Koopmans 型と言われるモデルにおいて、政策関数と生産関数を所与とした上で効用関数を推定する技法である。これは同時に、正アフィン変換を除いて一意な結果が出ることが示される。次に考えるのは、弱公理の下で需要関数から妥当な選好を顕示選好理論に従って導出する方法である。これは、通常の効用関数から導出した需要関数について、そこからこの手法で導出すると元の効用関数に戻るという特色を持つ。最後に考えるのは、古典的な Samuelson (1950) の予想に一定の解決を与える方法である。これは Samuelson の与えた仮定から弱公理を導出することによって解決を見る。

JEL Codes: D11, C61, E13.

Keywords: Ramsey-Cass-Koopmans model, policy function, integrability, revealed preference theory.